

**第23回「芥川作曲賞」
酒井健治氏の作品「ヴァイオリンと
オーケストラのための協奏曲」に決定**

公益財団法人 サントリー芸術財団は、9月1日(日)午後3時から東京・サントリーホールで演奏会による公開選考を行った結果、第23回「芥川作曲賞」を酒井健治氏作曲の「ヴァイオリンとオーケストラのための協奏曲」に決定、賞状と賞金50万円を贈呈しました。

「芥川作曲賞」は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団(現・公益財団法人 サントリー芸術財団)が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、同日、公開選考に先だって、第21回受賞者・山内雅弘氏の受賞記念サントリー芸術財団委嘱作品「^{そら}宙の記憶 オーケストラのための」の日本初演が行われました。

▽第23回芥川作曲賞

酒井健治(さかい けんじ)

<贈賞理由>

完成度の高さと芸術性の豊かさが評価された。今後のヴァイオリン協奏曲のレパートリーとして定着しうる優れた作品である。

<略歴>

1977年大阪府生まれ。フランス国立パリ高等音楽院にて学ぶ。2007～2009年までIRCAM研究員。文化庁、ロームミュージックファンデーション、野村財団から奨学金を受ける。2009年武満徹作曲賞第1位。2012年エリザベート王妃国際コンクール作曲部門グランプリ受賞。同年、文化庁長官表彰を受賞。同年フランスアカデミーの会員に選出され、現在カザ・ドゥ・ヴェラスケス（マドリッド）にレジデント・コンポーザーとして滞在中。

第23回芥川作曲賞 選考経過

1. 2013年3月27日（水）午後1時より東京都港区、ANAインターコンチネンタルホテル東京において第1次選考会を開催。2012年1月1日より2012年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第23回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は、伊藤弘之、川島素晴、糀場富美子の3氏。（50音順）

◆稲森安太己 作曲 「リヴァーシ ～管弦楽のための戦略」

初演：2012年1月20日 ケルン音楽大学大ホール

ギェルツェニヒ管弦楽団オーケストラワークショップコンサート

◆酒井健治 作曲 「ヴァイオリンとオーケストラのための協奏曲」

初演：2012年5月21日 パレ・デボザール（ブリュッセル）

エリザベート王妃国際音楽コンクールヴァイオリン部門

◆大胡 恵 作曲 「親和性によるグラデーション第4番」

初演：2012年10月26日 東京オペラシティコンサートホール

第81回日本音楽コンクール

（50音順）

2. 2013年9月1日（日）、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮＝大井剛史、管弦楽＝新日本フィルハーモニー交響楽団）。演奏終了後、ステージにおいて伊藤弘之、川島素晴、糀場富美子 3選考委員による公開討議（司会＝片山杜秀氏）を行った結果、「第23回芥川作曲賞」受賞曲に酒井健治氏の作曲による「ヴァイオリンとオーケストラのための協奏曲」が選定された。

3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー芸術財団代表理事 堤剛より賞状、賞金（50万円）が授与された。
なお、酒井健治氏にはサントリー芸術財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

以 上